

科目名	教材・授業研究Ⅰ（表現）	科目コード	21P-B5	
		科目群名	専門科目 (学校教育領域)	
	Practical Seminar on Instructional Materials and Lesson StudyⅠ (Art and Handicraft)	必修／選択	選択	
		教職	小	
担当教員	樫永 卓三	単位数	2	

【授業概要】

実践的指導力及び教材(題材)開発力を習得し、より高次な教育実践の展開を追究する。そのために現状の図画工作及び美術教育に関わる諸問題をしっかりと捉え、その要因と解決のための方策について自分なりの考えを明確に持つことが重要である。また、児童生徒の発達の特性や課題を捉えた適切な指導・評価がなされているかなど、実態を明らかにする必要がある。

その上で、実践的指導力及び教材(題材)開発力とは何かを明らかにしなければならない。ここでの学修過程においては、事例研究や模擬授業、フィールドワークを通して常に児童生徒を主体にした指導の在り方と望ましい評価の方法について研究を推進していく。

【授業の到達目標】

1. 図画工作及び美術教育の諸課題や解決の方策について明確な考えを持つことができる。
2. 事例研究などを通して、造形的な創造活動(表現及び鑑賞)を一層促す実践的指導力及び教材(題材)開発力を身に付けることができる。
3. 模擬授業を通して、実践的指導力及び教材(題材)開発の内容や方法について相互評価を行い、より高次な教育実践力を身に付けることができる。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴> (毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください)

形態	実施	具体的に実施すること
講義	◎	授業前段に本時の趣旨等について講義
グループワーク・質疑	◎	本時のテーマについての討議等
演習	○	授業実践力に関する演習・模擬授業等
プレゼンテーション	○	各自の方策等についての発表
制作	○	図工内容全般についての実技(鑑賞も含む)
その他 ()		

【授業計画】

回	内 容
1	図画工作及び美術教育の諸課題とその要因の把握
2	図画工作及び美術教育の自己の諸課題の明確化
3	図画工作及び美術教育の諸課題の要因の分析(プレゼン・研究協議)
4	図画工作及び美術教育の諸課題の解決の方策(プレゼン・研究協議)
5	実践的な指導の在り方及び教材(題材)の価値について
6	【事例研究1】魅力的な出会い(教材・題材・材料・表現方法・ひと等)の設定の視点
7	【事例研究2】子どもの力を引き出す効果的な場(学習環境)の設定の視点
8	【事例研究3】個に応じた共感的な支援(対話や相互鑑賞)の視点
9	【事例研究4】「しっかり教え、しっかり引き出す」実践的指導の視点
10	【事例研究5】子どもの表現意欲を高める教材(題材)開発と学習展開の視点
11	【事例研究6】子どもの表現や鑑賞の能力を高める指導の視点

12	教育実践への応用(指導プラン作成の考察)
13	模擬授業等を通しての実践的な指導について相互評価と考察
14	模擬授業等を通しての教材(題材)開発の内容や方法について相互評価と考察
15	学修のまとめ(自己の課題の反省と今後の方向性)
試験	
【履修上にあたっての準備】 ・受講開始までに、現在の図画工作科教育の課題について各自の思いを持っておくこと。 ・受講にあたっては小学校学習指導要領総則編(平成 29 年告示 東洋館出版社)、小学校学習指導要領解説図画工作編(日本文教出版)を持参し常に学修時活用することとなる。(毎回持参) * 中学校美術についての資料等は、1 回目の授業時に参考資料として配布します。	
【授業外学修(予習・復習)】 (1) 予習 第 2 回から次回テーマの提示があり、その解決の方策等について自分なりに文献等を参考にしながら考えをまとめておくこと。(3 回～11 回) (2) 復習 毎回授業後にコメントを記入し、次回の授業における課題解決への手掛かりとなるよう蓄積していくこと。 (3) 12 回～15 回の予習・復習については、別途授業時に提示します。	
【評価方法】 授業内で課す発表や演習・模擬授業・成果物等 (50%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価します。	
【教科書】 ・小学校学習指導要領総則編(平成 29 年告示 東洋館出版社) ・小学校学習指導要領解説図画工作編(平成 29 年告示 日本文教出版) ・藤澤英明、水島尚喜編(2010)「図画工作・美術教育研究 第三版」教育出版	
【参考図書】 ・授業時に適宜紹介します。	